

# 1 学校経営方針及び教育基本方針

～『「今日も楽しかった、明日も楽しみ」と全児童生徒が思える学校』を共に創ろう！～

1. 地域・子供の実態 ～九州最後の炭鉱の島、池島。その「希望の火」を絶やさないために～  
かつて8,000人の活気が溢れた「九州最後の炭鉱の島」池島。現在は人口約90名にまで減少し、その大半が高齢者となった。島で暮らす子供は、いまや本校の児童生徒2名のみである。同世代の友人がいない環境において、他校との交流学习は、彼らが社会を知り、自らの世界を広げるための極めて重要な窓口となっている。

島の経済を長年支えてきた炭鉱観光も、令和9年3月にはその歴史に幕を閉じようとしている。産業が失われ、静寂に包まれつつあるこの島において、学校は単に知識を授ける場ではない。そこに子供たちの姿があること、そのものこそが住民の生きがいであり、コミュニティの鼓動を伝える心臓部であると考えている。

学校行事に集まる人々の笑顔や子供たちの歓声は、地域を繋ぎ止める「最後の砦」である。学校を核とした地方創生に挑み、この「地域の火種」を絶やさないこと。それこそが、池島の文化を次世代へと継承する道であると確信している。

## 2. 学校経営の基本的な考え

### (1) 教育理念

学校を「島の心臓」とした地域共生教育の推進「**子供の姿と学校が住民の生きがいである**」という認識に立ち、学校を単なる教育施設ではなく、池島のアイデンティティを維持・継承するための拠点と位置づける。

### (2) 社会の窓としての学校

少人数であることを孤独ではなく、「島全体に愛される特権」と捉え直すとともに、ICTや外部交流を駆使して社会との接続を最大化する。

### (3) 希望の象徴としての学校

学校行事を地域最大のイベントと位置づけ、住民が主体的に関わる仕組みを作ることで、地域の連帯感を醸成する。

### (4) 重点目標＜3つの開拓＞

#### ① 学びの開拓（神浦小・外海中との交流学习の充実）

島外への交流学习を積極的に行い、多様な価値観に触れる機会を確保する。

#### ② 絆の開拓（「全島民・学校運営協議会」的アプローチ）

島民一人ひとりが「外部教員」として子供に関わる場を作り、多世代交流を通じて子供たちの自己肯定感を高める。

#### ③ 文化の開拓（「炭鉱遺産」の記憶継承）

令和9年の炭鉱観光終了を見据え、子供たちが島の歴史を学び、デジタルアーカイブ化する等の活動を通じ、郷土愛を次世代へ繋ぐ。

### 3. 学校経営方針

#### ① 社会的孤立を防ぐ「窓」の創出

同世代が少ない環境を補うため、長崎市内のネットワークを活用し、「顔の見える継続的な交流」を構築する。単発のイベントに終わらせず、日常的に画面越しで切磋琢磨できる環境を整えていく。

#### ② 「学校核」の地方創生モデル

炭鉱観光に代わる「新しい島の価値」を、学校を起点に模索する。例えば、子供たちが島の魅力を発信する学習を行い、それを島民へ発信したり、適宜サポートを得たりプロセスを通じて、「教育によるコミュニティの再活性化」を図る。

#### ③ 逆境を強みに変える「超・個別最適学習」

少人数を活かし、個々の興味・関心に基づいた徹底的な個別指導を行う。「ここでしかできない教育」を展開することで、島外からも注目される教育モデルを目指す。

#### 【個別政策】G1-1 「確かな学力」の向上

G1-2 健やかな心と体の育成

G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実

G1-4 安全・安心に学べる教育環境の整備

⇒ 「学校を核とした地方創生に挑み、地域の火種を絶やさないこと」

この決意こそが、本校経営の羅針盤である。

教育課程の編成において、教科書の内容を教えるだけでなく、「池島で学ぶことが、どう社会や未来に繋がるか」を子供と住民が共に語り合える場を創っていきたい。

そして、その延長に、『「今日も楽しかった、明日も楽しみ」と全児童生徒が思える学校』が見えてくるはずである。

○知 ICT（クラウドブック）を活用した個別最適な学びの推進  
小中合同授業による多様な意見の交流

○体 島内の豊かな自然環境を活かした体力づくりと、食育の推進

○徳・○公 全校児童生徒による協働活動を通じた思いやりの育成  
ふるさと教育 炭鉱遺産を活用した学習や、島おこしを考える「池島学（総合的な学習）」の展開

⇒ 「デジタル・シティズンシップ」の育成

「持続可能な島づくり」に向けた学習の強化

島外の学校とのオンライン交流

（人数によるコミュニケーションの固定化を防ぐ）

校 訓： 明るく・元気に・のびのびと

教育目標： 「愛顔」で、より良い未来に向かって努力する子供の育成

重点取組： 「あいさつ・返事」「美しい言葉」「学習規律の定着」

#### 目指す教職員像

○情熱  
子供のために力を注ぐ教職員  
○使命感  
専門職として力を発揮する教職員  
○主体性  
学校経営に参画する教職員  
(1mmでも前進ならばGO!)

#### 目指す子供像

か 考える力 (知)  
が 頑丈な心 (体)  
や 優しさ思いやり (徳)  
け けじめある態度 (公)

#### 目指す学校像

○子供が楽しみをもち、かよ  
いがいがある学校  
○教職員がやりがいをもつ学校  
○保護者・地域から信頼され  
る自慢の学校  
※スローガン

### つながる力

○読解力育育成  
○コミュニケーション能力  
○言葉を大切にする学校文化  
○自己決定場面を保障し、自己有  
用感に裏打ちされた自己肯定感

## 池 島 魂

### 考える力

○体験活動を取り入れた問題解決  
的な学習過程  
○読書活動の充実  
○言語活動の充実  
(相手意識・必然性・適時性)

### スローガン

「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校

働き方  
改革

選択と  
集中

カリキュラムマネジメント  
総合・特活 (行事)・道徳・各教科  
ICT 活用

外  
部  
機  
関

行  
政  
機  
関

特別支援教育／人権教育／積極的生徒指導

学校を核とした地方創生 (地域協働)

## 4 具体的な取組

### (1) 社会的孤立を防ぐ「窓」の創出【個別施策G 1－1、2、3、4】

～「責任感」「コミュニケーション力」「自立心」の育成を目指して～

子供が輝くとき、子供たち自身の達成感や満足感があり、周囲の人はそこに感動を覚え、時には尊敬の念さえ抱くこともある。そのときの子供の姿は、決して他人任せの状態ではなく、互いに支え合いながら、一生懸命に行動している場面にある。

将来、子供たちが輝きをもって日々の生活を前向きに生きていくことができるような力を身につけさせられるよう、全ての教育活動において「子供を中心」に据え、子供が積極的かつ主体的に活動することで「愛顔」が生まれる場면을数多く作りたい。子供たちには「どうしたらよいか」を考え、その解決を図ることで更なる成長を目指してほしい。同世代の友人がいない環境を補うため、長崎市内のネットワークを活用し、「顔の見える継続的な交流」を構築する。単発のイベントに終わらせず、日常的に画面越しで切磋琢磨できる環境を整えていく。

### (2) 逆境を強みに変える「超・個別最適学習」【個別施策G 1－1、2、3】

～一人一人を大切にした「個別最適な学び」への実践～

マンツーマン指導において、どのような力を育成すべきか、求められる力をどのように身につけさせるかを考える必要がある。一斉授業と同じスタイルではなく、目の前にいる子供の実態に応じた指導を展開すべきである。まさに、個に応じた学びを最適な学習環境で提供することが最重要課題である。少人数を活かし、個々の興味・関心に基づいた徹底的な個別指導を行う。「ここでしかできない教育」を展開することで、島外からも注目される教育モデルを目指す。

#### 【具体的な取組】

#### ① 確かな学力の定着に向けた取組

～得意な部分を伸ばし、苦手な部分を克服する指導～

##### ○ 学習指導要領に基づいた指導

- ・主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（質の高い学びの実現）
- ・各教科等におけるカリキュラムマネジメント、指導と評価の一体化の推進

→「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」を参照に効果的な単元計画と年間指導計画を軸にする。

##### ○ 「あじさいスタンダード」「長崎県読解力向上プラン」「長崎県授業改善メソッ

ド」の活用／クロームブックを「普段使い」する授業展開

- ・何を学ぶのか「めあて」を示し、単元や一単位時間の流れ「見通し」を示し、取組を振り返りながら成果と課題を見つける「まとめ」を示す、一連の授業展開を構築する。
- ・教師の言葉や指示が意図通りに伝わっているか、理解させるべきことが本当に理解できているのかを常に確認する。（リーディングスキルの活用）
- ・理解が不十分な内容については、ＩＣＴ機器を活用するなど、確実な習得を目指す。

○ 読書活動の充実（読書時間の設定、図書室の活用、家庭読書の働きかけ）

- ・知的好奇心を高めたり、多様な人々の思いや考えに触れたりすることができる。
- ・本を通じて様々な疑似体験ができる。

○ 「読む」「書く」「発表・表現」などの言語活動の充実

- ・文章で自分の考えを言わせる、書かせる。（モデルを示す）

○ 学力調査及び業者テストの分析及び課題解決に向けた働きかけ

- ・強みと弱みを把握し、できるまで解かせる。

② 健やかな体の育成に向けた取組

～心身を鍛え、健康でたくましい体をつくるための指導～

○ 日常生活における健康的な生活習慣の確立

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の継続指導 → 健康観察で確認
- ・歯磨き指導やむし歯予防等、自分の健康に対する意識を向上させる指導の継続
- ・フッ化物洗口の計画的な実施

○ 給食の時間や「食育の日」等を生かした食育の充実

- ・正しい食事の在り方や望ましい食習慣、マナー等食に関する指導の継続指導
- ・アレルギー対応（エピペン所持）への個別指導と保護者連絡と適宜面談

○ 計画的・継続的な運動習慣に向けた指導

- ・朝の時間を活用した基礎体力作りの活動、遊びを生かして楽しみながら体を動かす活動を計画的に実施し、脳を活性化させながら運動習慣の確立を目指す。

○ 体育・保健体育の授業を中心とした体力向上

- ・基礎体力づくりから、徐々に瞬発力・調整力の向上につなげる。
- ・外部講師を活用するなどして、運動に関心を持たせるための取組を仕組む。
- ・普段の授業も含め、「正しい姿勢」への意識を高める。

○ 体育的行事や部活動等における指導

- ・目標達成に向けた取組を支援し、教職員全員で励ます体制をつくる。

### ③ 特別支援教育の視点に立った指導・支援

～確かな学びにつなげるための学習環境の改善～

#### ○ ユニバーサル・デザインの視点を生かした教育活動の推進

- ・授業の流れを事前に提示するなど見通しを持たせたり思考の流れが分かる板書を行ったりする

#### ○ 「どうすればできるようになるのか」を支援する手立て

- ・子供の実態に応じて、課題の難易度を調整するなどスモールステップ化を図る。
- ・説明は簡潔に行ったり見える化をしたりするなど工夫をする。
- ・子供の活動及び実践に時間をかける。

### (3) 「学校核」の地方創生モデル【個別施策 G 1－1、2、3】

～より良い未来に向けて～

子供との信頼関係は、教育に必要不可欠なものである。それによって子供は変わり、大きく成長する。その中で「なりたい自分」を見つけ、達成を目指してほしい。時には、自分の適性や能力を見定め、変更せざるを得なくなる場面も想定されるが、「子供の可能性は無限である」ことを信じ、優しさと厳しさを持って、愛情を注ぐ指導に徹しながら、子供の夢を全力で応援していきたい。

また、将来の地域づくりの担い手となる人材として育てていくために、炭鉱観光に代わる「新しい島の価値」を、学校を起点に島全体で模索する風土を醸成したい。例えば、子供たちが島の魅力を発信する学習を行い、それを島民へ発信したり、適宜サポートを得たりプロセスを通じて、「教育によるコミュニティの再活性化」を図る。

地域と共にある学校を創造することは、「馴れ合いの解消」と「学力向上」の両面において、極めて強力な推進力となる。特に、家庭内では兄弟姉妹という限定的な人間関係しか持たない子供たちにとって、学校が「多様な大人と出会う場」として機能すれば、それは何よりの生きた教材になるはずだ。

#### 【具体的な取組】

#### ① 「探究的な学び」につながる取組の充実

##### ○ 教科指導を軸として、総合的な学習の時間などにつなげるカリキュラムマネジメント

- ・担当教科や領域等で、単元や題材、まとまりの中で3観点を適切に配分し、効率的で効果的な指導と評価を実施していく。
- ・そのうえで、学習課題と関わる教科の内容があれば、時期を合わせて関連付けて指導する。
- ・学習課題を達成するために必要な内容を学校行事とつなげて計画的に実施する。

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
  - ・必要に応じて、教員が「児童役」「生徒役」を務める。
- 自ら考え、創意工夫する取組の充実
  - ・自分の考えをまとめ、発表する経験をさせることで、思考力・判断力・表現力の向上を進め、達成感を味わわせる。
- ② 子供の夢を育むキャリア教育
  - 「なりたい自分」を考えさせるための将来を見据えた指導
    - ・キャリア・パスポートを活用し、将来に向けた自分の思いを考えさせる。
  - ゲストティーチャーの招聘
    - ・様々な分野で活躍している人材をゲストティーチャーや講師として活用する。
    - ・高いレベルで活躍する姿から、「より良い自分」に向けた意識付けを図る。
- ③ 掲示教育の充
  - 子供の学びの様子や伸びが分かる掲示の工夫
    - ・充実した掲示は、来校者が子供たちの学びの様子を知る機会にもなる。
  - 子供たちにメッセージを伝える掲示物の充実
    - ・諸行事や授業、教職員の言語活動と連動させて意識の定着を図り、行動変容へ導く。
- ④ 学校ホームページ、テトルを活用した、学びの相手意識・目的意識づくり
  - 総合的な学習の時間「池島学」
    - ・学習成果を島内外に積極的に発信し、子供が学びに対する意義を見出せるようにする。

#### (4) どうしたらよいかを考え、周りと協働する場の設定

##### 【個別施策G 1－1、2、4】

～様々なことに目を向け、考える力を育成するために～

これから子供たちは、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の作り手となるような力を身に付けることが期待されている。「多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出す。」このことは、様々な課題を抱えている社会を歩んでいくうえで必要となる。多様な他者と交流したり協働して活動したりする機会を設定することで、自分だけでなく、周囲のことを考えて発言したり行動したりできる力を身に付けさせたい。児童生徒と教職員で、共汗と共感を大切にしながら活動を進めていきたい。

## 【具体的な取組】

### ① 豊かな心の育成に向けた取組

～自分を、他人を、そして自然を大切に思う心の醸成～

#### ○ 道徳の時間の充実

- ・ よりよく生きようとする道徳的判断力・実践力の育成を目指した授業に努める。
- ・ 中学校は、「輪番制」による指導を生かす。
- ・ 「1人1台端末」の利活用に伴い、情報モラルについての指導を徹底する。

#### ○ 学校内外における自他の命を大切にする指導の徹底

- ・ 丁寧な言葉遣いや行動を心がけ、できていない時にはその時にアプローチし改善を促す。
- ・ 安心で安全な生活に向けた指導を日常的に行う。  
(交通安全、防災・避難訓練、情報技術の進展に伴う問題等)
- ・ 安全確保のための校内整備(危険箇所の確認、教室や廊下等の丁寧な清掃活動)

#### ○ 自他を思いやり、寄り添う心を育てるための指導

- ・ 他者への配慮ある言動、思いやりのある態度の育成に努める。
- ・ いじめの未然防止に努める。

#### ○ 人権・平和教育の充実

- ・ 人権に対する理解と認識を深め、互いに人格を尊重し合う関係づくりを目指す。
- ・ 平和を希求する心情を養い、日常の中にある「平和」を大切にする心を育てる。
- ・ 平和を唱え、平和をつくりだす行動を心がけながら指導していく。

### ② 交流学习の充実(同世代の児童生徒との交流)

#### ○ 近隣校等との交流学习

- ・ 島外の小・中学校との交流学习を、社会性の育成に向けた体験の場とする。
- ・ 様々な活動の中で、周囲と協力し合う経験を多く積ませる。
- ・ 失敗を他人のせいにしないように「当事者意識」「責任」を持たせる。

### ③ 円滑な人間関係づくり・過ごしやすい環境づくりに向けた支援

#### ○ 常識より「良識」での判断に向けた意識づけ

- ・ 生活面での心がけや正しい判断力が、人間関係にも影響を及ぼすことを伝える。

#### ○ 元気なあいさつ・返事、清潔な身なり、整理整頓などの日常的な指導

- ・ 交流活動を含め、様々な場面で大切なことであることを意識させる。

#### ○ 悩みに対する誠実な対応

- ・ 悩みを抱えている様子がうかがえる場合は、すぐに声をかけ、対応し、解決に向けて尽力する。

(5) 一人一人の教職員の思い・持ち味・特技等を生かした教育

【個別施策G 1－3、4】

～教育は人なり～

「教育は人なり」と言われる。それぞれの持ち味を生かし、子供にとって良い影響を与える教師集団でありたい。指導の形・方法が違って、情熱を持って取り組み、向かう方向性を同じくすることで、子供に安心感を与え、健やかな成長に資する活動が展開できる。

「信頼し合う職員室」「共に成長する職員室」であるために、互いによさを認め合い、普段からコミュニケーションを大事にするとともに、「一人でしない・させない・抱え込まない・抱え込ませない」を鉄則としながら、協力し合う教師集団を目指す。

【日頃から意識したいこと】

① 「信頼し合う職員室」「安心して共に成長できる職員室」に向けて

- ネットワーク：「報告、連絡、相談」「情報、発想、工夫等の共有」「互いの良い面を学ぶ」
- フットワーク：「自分が動く、自分も動く（情：人間的な 知：論理的な 範：模範的な指導）」

「エンパワーメント（情熱や本能におされて主体的に動くように触発し合う）を意識する」「attack & cover」で「1 vs 1」を磨く（自己開発）

- チームワーク：「教育目標、課題、成果を共有」「家族のような職員室」
- 共通理解・情報の共有に向けて
  - ・ 大事な内容について「知らなかった」「聞いていない」をつくらない。
  - ・ 何事も1人で抱え込まない。また、教職員同士のコミュニケーションを通して、心配なことがあれば互いに相談できる関係をつくる。

(6) 専門職としての誇りと使命感、良識に基づいた業務推進

【個別施策G 1－1、2、4】

～計画的に、効率的に、健康的に～

「教師自身が最大の教育環境である」、「自己改革こそが最大の教育改革である」を心にとめて、教育活動と自己研鑽に邁進していく。

現在、学校に求められている課題は多い。私たちは専門職としての誇りと使命感を常に抱いて業務に当たるとともに、「時代の流れを読むことができる教職員」を目指していきたい。

また、サービスの厳正を期し、「不祥事を決してしない・させない」職場づくりに努めるとともに、人として良識ある言動に心がけ、信頼を得られるよう日々の業務を推進しな

なければならない。勤務時間を意識した業務改善に向けては、組織及び個人の業務の効率化を推進するとともに、チームで対応できる体制づくりに努めることが大切である。

**【日頃から意識したいこと】**

- ① 学習指導の「プロ」としての教材研究、主体的な研修への参加
  - 子供にどのような力をつけてほしいのかを考え、その準備を計画的に行う。
  - 各種研修会への参加に際しては、自身の力量アップに関わるものであるとともに、本校の代表として「学びを伝達する役割」があることを意識する。
- ② 常に「新しい学び」を取り入れようとする姿勢
  - 学習指導要領の内容、新しい評価の在り方、G I G A スクール等のみならず、教育に関する様々な情報を取り入れ、それらを子供の活動に還元する。
- ③ 計画的・効率的な業務推進 ～「働き方改革」の更なる推進に向けて～
  - 超過勤務の縮減（月45時間以内、年間360時間以内）に向けて、「何を・いつまでに」を事前に計画し実行していく習慣をつける。
    - ・退勤予定時刻を記入し、それを意識した上で早めの退勤を心がける。
    - ・業務の見直しをしながら、スクラップアンドビルドを行う。
- ④ 教職員の健康が最優先
  - 日頃から健康管理に心がけ、積極的な年休取得に努める。
- ⑤ 不祥事を起こさない起こさせない
  - 不祥事（飲酒、交通法令順守、体罰や暴言、迷惑行為、SNSの不適切な利用等）は、積み重ねたすべての信頼を失う結果につながることを常に意識する。
  - チーム池島を常に意識する。